

## W01a MAXI/GSC が検出した 2022 年度後半の突発現象

根來均, 中島基樹, 小林浩平, 副島良彦 (日大), 那波咲良 (中央大), 芹野素子 (青学), 三原建弘 (理研), 岩切渉 (千葉大), 河合誠之 (東工大), 松岡勝 (理研) 他 MAXI チーム

全天X線監視装置 MAXI が前回の秋季年会以降に発見検出した突発現象について報告する。10月21日に MAXI/GSC では5回目の検出となるブラックホールX線連星 4U 1543-47 からのミニアウトバーストを検出した (Negoro+ The Astronomer's Telegram (ATel) #15715)。また、RXTE/ASM と MAXI/GSC の27年に渡る光度曲線を用いて、高質量連星系 4U 1210-64 (1ES 1210-646) に約5,080日の周期性を示唆する2つの状態があることを明らかにし、11月22日に ATel に報告した (Nakajima+ ATel #15771)。2022年の年初以来、再増光中であったブラックホール候補天体 AT 2019wey が11月下旬にハード状態のまま過去最大強度に達し、それまでの長期変動を含め11月25日に ATel に報告した (Negoro+ ATel #15776)。

また、これまでに5つガンマ線バースト (GRB) を検出している。221006A (Mihara+ GCN 52626) は Swift/XRT の追観測で検出され、 $z = 0.731$  の母銀河の候補が見つかっている (GCN 32731, 32742)。過去最大強度の GRB である 221009A/Swift 1913.1+1946 は、ISS からのデータ遅延により Swift より報告は遅れたものの、MAXI は 2 Crab を超える非常に明るいアフターグローを最も早く検出し、Swift に次いで報告した (Negoro+ ATel 15651; Kobayashi+ ATel 15677, GCN 32756; 詳細は小林他で報告)。残り3つの GRB は強度が 100 mCrab 台と暗く、221017A (Nawa+ GCN 32777) は10分以上続いた long GRB の一部とわかったが (cf. GCN 32872)、221008A (Soejima+ GCN 32630) と 221028B (Negoro+ GCN 32882) は MAXI のみの検出となった。講演では、年会までに発見検出された天体を含め、これらの突発現象について報告する。